



26

データ容量無制限で
計測・保存したい

連続収集機能

通常1計測あたりのデータ数には制限があります。本機能は、データ数が無制限になります。長期試験など、制限なく計測し続けたい場合などに便利です。

HOW TO/STEP

- 1 【収集設定】 ボタンを押します。
- 2 収集条件の設定ページで連続収集を選択します。
- 3 サンプリング周期や自動保存条件などを設定します。

連続収集

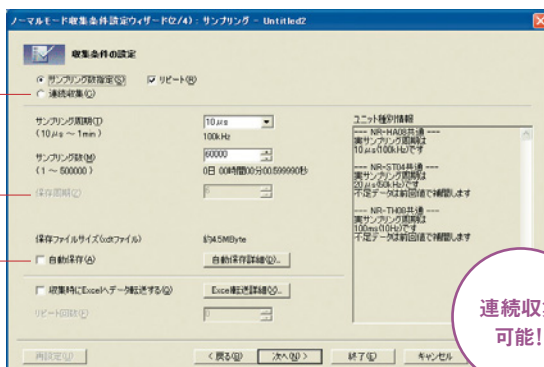
② 収集の開始から停止までの間、連続して収集します。サンプリング周期は最速「100kHz÷チャンネル数」までの制限がかかります。

保存周期

- ③ データが保存周期ごとに保存されます。保存中も収集は切れ目なく行われます。

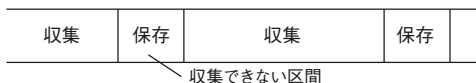
自動保存

データの自動保存をするかしないかを設定します。

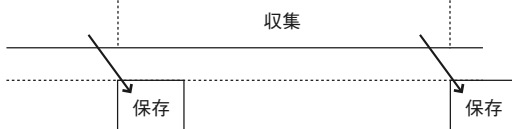


連続収集
可能!

サンプリング数
指定時:



連続収集時:



※連続収集時、サンプリング周期は最速(100kHz÷チャンネル数)。



音や振動などの異常状態の計測などで大量のデータ計測時に使用します。表計算ソフトへの転記時は、データ圧縮機能(31ページ)を併用すると便利です。保存周期毎に分かれたファイルを結合することも可能です。



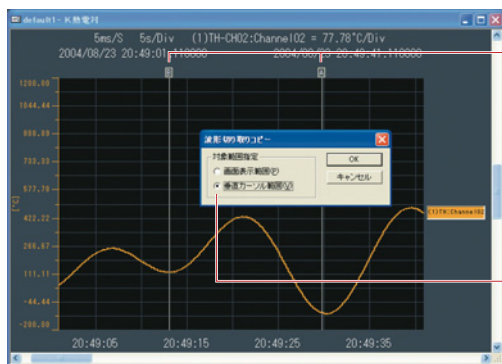
27 大きなデータの一部だけ 保存したい

波形データ 切り取り機能

長い計測データ中、ある一部分のデータだけ保存したい場合に活用できる機能です。(バイナリ形式のみ。CSV形式時は32ページ)

HOW TO/STEP

- 1 保存する範囲を垂直カーソルA, Bで囲みます。
- 2 【ファイル】-【波形データ切り取り】を対象範囲「垂直カーソル間」で実行。
- 3 新ウィンドウがアクティブ状態で【ファイル】-【波形データ保存】を選択します。



1 保存範囲を垂直カーソルA, Bで囲みます

2 切り取り範囲は、「垂直カーソル間」「画面表示範囲」を選べます。



波形の
切り取りが
できました!

3 切り取られたウィンドウをアクティブにし、保存します。

ワンポイント



データ保存だけでなく、FFT解析やX,Yリサージュ波形を表示する範囲を指定したい場合にも活用できます。上の要領で作成した新データウィンドウにFFT解析などを実行すれば、範囲を指定した格好になります。



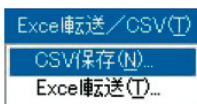
28 大量のデータを保存時に圧縮したい

データ圧縮機能

表計算ソフトは、扱えるデータ数に制限があります。例えばExcel®の場合、65536データ(行)までの制限です。データ量がそれ以上の場合、データ圧縮が便利です。

HOW TO/STEP

- 1 【Excel転送/CSV保存】 - 【CSV保存】を選択します。
- 2 保存範囲を指定します。
- 3 データ圧縮処理を指定し、保存を実行します。



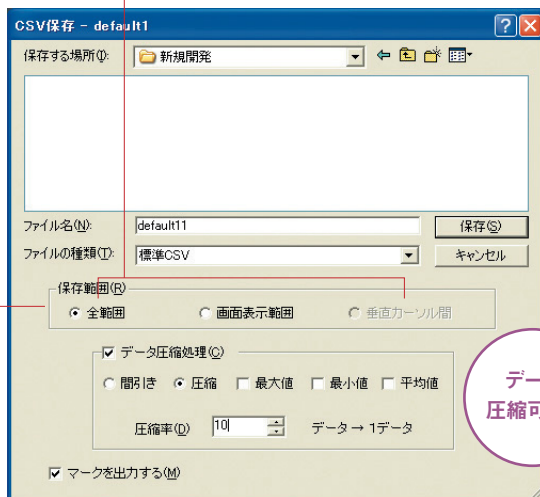
1

2 垂直カーソル範囲などで、保存するデータ範囲を指定できます。

間引き: 指定した圧縮率で、データを飛ばしてCSV保存します。

全データ保存	間引き
間引き	間引き
圧縮率数毎に飛ばして保存	間引き
間引き	間引き

圧縮: 指定した圧縮率データ数毎に、[最大値]、[最小値]、[平均値]を演算して変換します。



データ
圧縮可能!

※Excel97以降



自動保存時やユーティリティソフト“FileViewer2”使用時(38ページ)にもデータ圧縮機能は利用できます。(ただし、データ範囲設定はありません。)

29

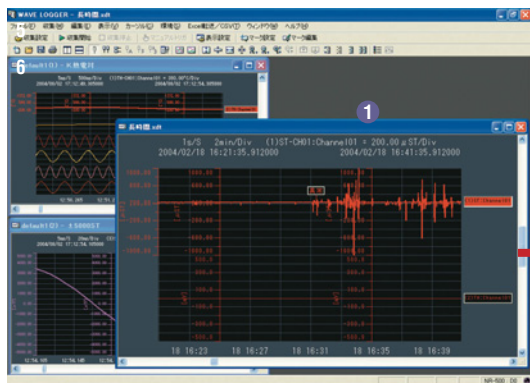
データファイル Excelで読める形式に変換したい

CSV変換機能

データファイル形式は、専用バイナリ形式と表計算ソフト用形式の2通りがあります。バイナリ形式から表計算ソフト用への変換方法をご紹介します。

HOW TO/STEP

- 1 変換したいデータウィンドウをクリックし、アクティブ状態にします。
- 2 【Excel転送/CSV保存】 - 【CSV保存】を選択します。
- 3 保存を実行します。必要であればデータ保存範囲や圧縮処理を指定します。



CSV変換
可能!

本手順は、計測済みデータファイルを変換する方法です。
CSV形式データファイルは、他に
・自動保存時
・専用ユーティリティで変換の
2通りで得られます。



表計算ソフトで読める形式 (CSV形式) は、専用波形ソフトでは開けません。
また、CSV形式で保存したファイルサイズはバイナリ形式に比べ4~5倍程度大きくなります。
通常はバイナリ形式で保存し、必要時にCSV形式への変換をお勧めします。



30

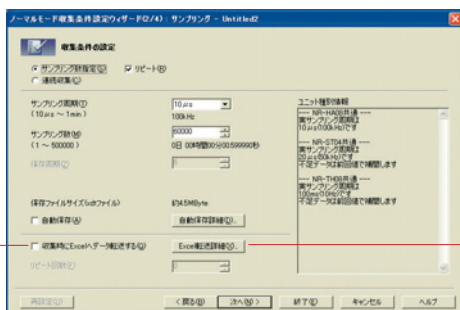
収集中、 直接Excelにデータを書き込みたい

Excel転送 機能

データを表計算ソフトに取り込むには、通常、[計測]-[データ保存]-[CSV形式へ変換]-[Excelで読み込み]の4手順が必要ですが、本機能でその手間がなくなります。

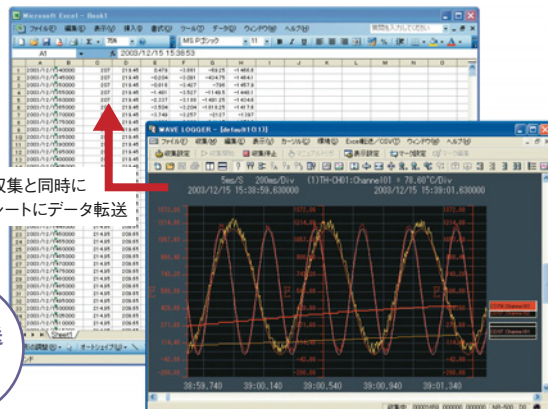
HOW TO/STEP

- 1 【収集設定】 ボタンを押します。
- 2 【収集時にExcelへデータ転送する】 にチェックを入れます。
- 3 Excel転送詳細ボタンで必要事項を記入します。



2 ここをチェック

3 初期設定では、
「Sheet1」シートに、
全チャンネルデータを
Excelへリアルタイム転送します。



波形収集と同時に
指定シートにデータ転送

Excel転送
可能!

ワンポイント



書式や数式・グラフ範囲などを設定したテンプレートファイルを作成しておき、Excel転送時にそのファイルを指定することもできます。その場合、テンプレートファイルを自動的に開いて書き込みます。

設定・収集

表示

検索・解析

データ保存

Excel親和性

印刷

ファイル操作

カスタマイズ

番外編

関連商品

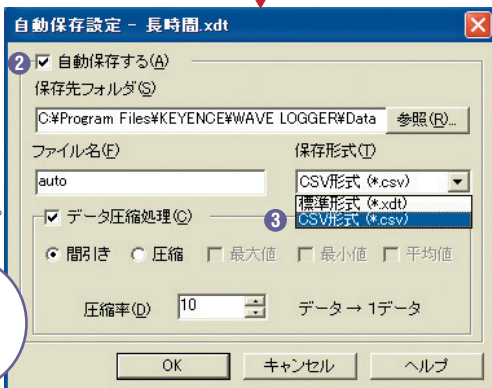
31 自動保存時に、Excelで読める形式で直接保存したい

CSV自動保存機能

データ収集の一定期間ごとに自動でデータ保存を行なえます。保存形式は、専用バイナリ形式かCSV形式かを選択できます。

HOW TO/STEP

- 1 【収集】 - 【自動保存設定】 を選択します。
- 2 自動保存にチェックを入れます。
- 3 保存形式でCSV形式を選びます。



標準形式：専用バイナリ形式
 CSV形式：Excelで読める形式。
 保存時に間引きなどのデータ圧縮を併用できます。
 操作内容は28ページを参照ください。

CSV自動保存可能!



CSV形式で自動保存されたファイルは、直接Excelなどの表計算ソフトで扱えます。逆に、専用波形ソフトでは扱えなくなるため、選択時には注意が必要です。



32

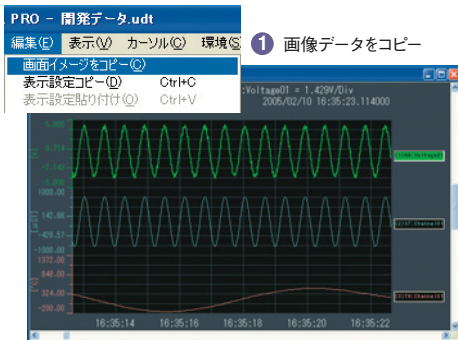
波形画像をExcelや ワープロに貼り付けたい

波形キャプチャ機能

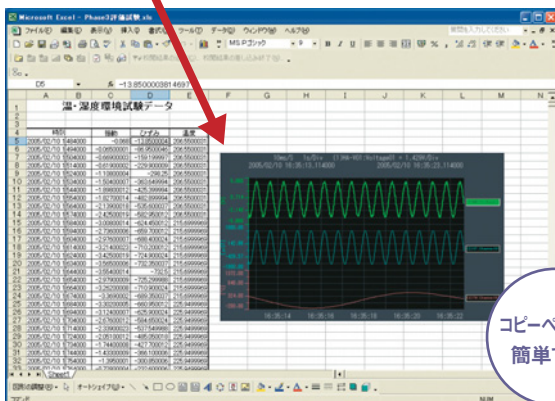
ワンタッチで波形データをキャプチャし、ソフトヘダイレクトに貼り付ける事が可能です。レポート作成時に便利です。

HOW TO/STEP

- 1 【編集】 - 【画面イメージをコピー】 を選択。
- 2 貼り付けたいソフトをクリックし、アクティブ状態にします。
- 3 貼り付けたいソフトの【編集】 - 【貼り付け】 を選択。



- 2 アクティブ後
- 3 貼り付けます。



本機能で貼り付けられるのはグラフィックデータです。
数値データのまま欲しい場合は、Excel転送機能(33ページ)をご利用されると便利です。

設定・収集

表示

検索・解析

データ保存

Excel親和性

印刷

ファイル操作

カスタマイズ

番外編

関連商品



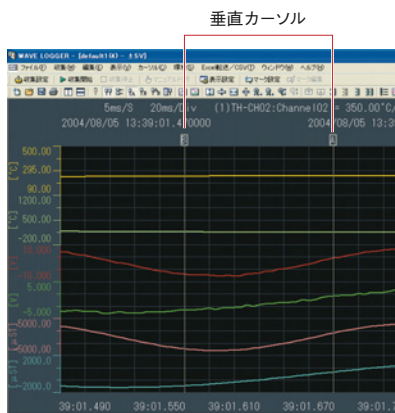
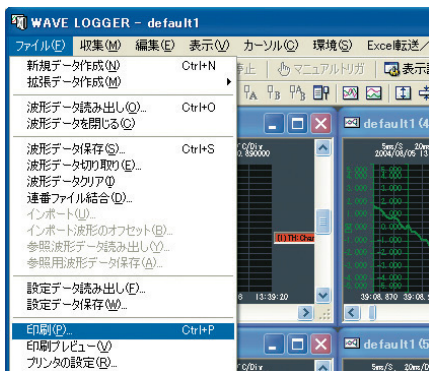
33 印刷する範囲を限定したい

印刷範囲指定機能

計測データを印刷するとき、全部のデータではなく一部だけを印刷したい場合があります。印刷オプションで範囲を限定できます。

HOW TO/STEP

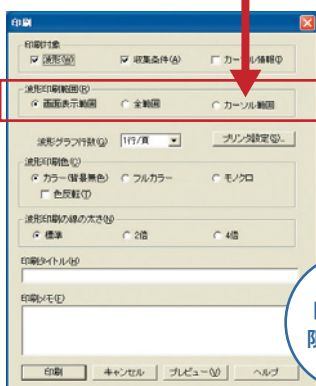
- 1 【ファイル】 - 【印刷】 を選択します。
- 2 波形印刷範囲を3つの選択肢から選びます。



1

2

波形印刷範囲:
 画面表示範囲・・・表示されている1画面分のみ印刷
 全範囲・・・計測されたデータ全てを印刷
 カーソル範囲・・・垂直カーソルで囲んだ範囲内のデータを印刷



印刷範囲
限定可能!



印刷のイメージは【印刷プレビュー】で見ることができます。



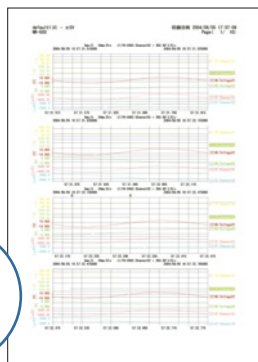
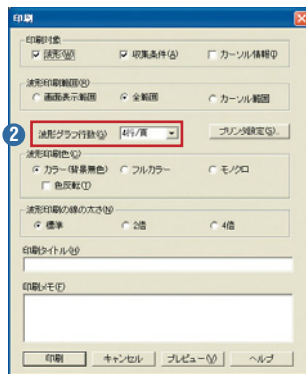
34 長いデータを 1ページにまとめて印刷したい

複数行印刷 機能

基本の印刷イメージパターンは、画面表示そのままになります。長い計測データを少ない枚数で印刷できるように、数画面をまとめて印刷する設定があります。

HOW TO/STEP

- 1 【ファイル】 - 【印刷】 を選択します。
- 2 印刷設定の【波形グラフ行数】で1ページにまとめたい行数を選択します。
- 3 行数を4にすると、4画面分が1ページに印刷されます。



複数行
印刷可能!

- 3 波形グラフ行数設定分、1ページに波形が時系列で並びます。



プリンタ側に標準でついている、枚数をまとめる機能では、グラフ周囲にある余白部分などをつけたまままとめてしまいます。本機能を活用すると、紙面を効率的に使用できます。



35

たくさん記録したデータを
一気にCSV変換したい

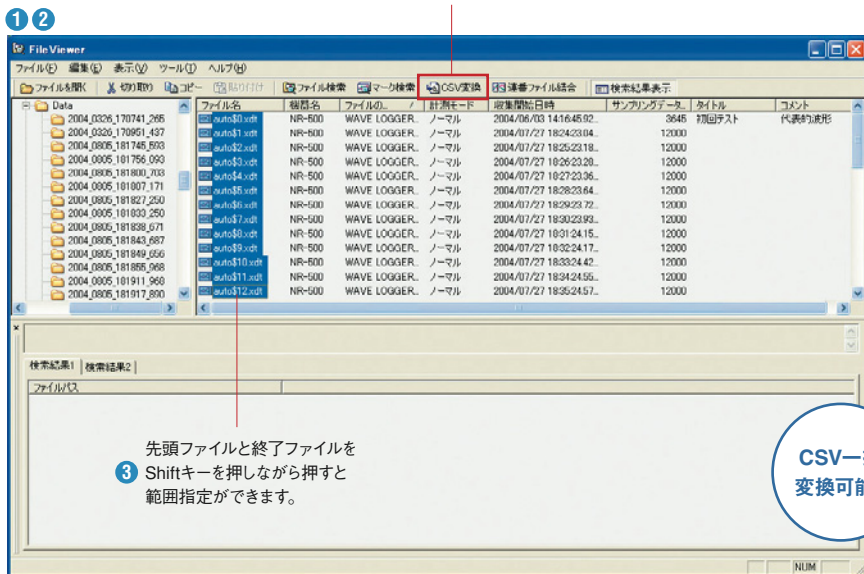
CSV一括変換
機能

保存したバイナリデータファイルをCSV形式へ変換する作業は、従来ファイル数分繰り返す必要がありました。本機能は一度で済ませられます。

HOW TO/STEP

- 1 ユーティリティソフト“FileViewer2”を起動します。
- 2 エクスプローラの要領で、データファイルのディレクトリまで移動します。
- 3 変換したいファイル先頭と終了ファイルをShiftキーを押しながらクリック。
- 4 【CSV変換】ボタンを押し、画面のメッセージに従います。

4 CSV変換 ボタンを押します。



表示された設定ウィンドウで、保存ディレクトリなどを設定すると、データファイルを開くことなく、一度にCSV変換されます。



“FileViewer2”でのCSV変換時にも、データ圧縮機能(31ページ)を併用できます。一度に変換できるファイル数は1000ファイルまでです。